

2 (わくわくめいろ) のレシピ

※注意事項 強力な磁石を使用するため、誤飲の可能性がある児童生徒には絶対に使用しないこと。
また、児童生徒の手の届くところに保管しないこと。

< ねらい、目的 >

- ・迷路を楽しみながら、目と手の協応動作を高めます。
- ・磁石を動かすために鉛筆を持ち続けなくてはならないため、集中力を高めることに繋がります。

< 材料 >

- ・ファイルケース (A4 サイズ、ハードタイプ、厚み22mm)
- ・すきまテープ (厚み10mm、幅15mm)
- ・超強力マグネットミニ (1個の直径が5~6mm)
- ・色画用紙、厚紙など (白表紙などでも可)
- ・えんぴつ (新品、けずっていないもの)
- ・ハサミもしくはカッター
- ・セロハンテープ



< 作り方 >

1. えんぴつ (けずっていないもの) の先に、セロハンテープでマグネットを張り付けます。
※上から二重で張り付けた後、はがれないように縁を補強するとよいです。



2. 画用紙などに、キャラクターなど好きなイラストを1.5cm程度の大きさに描きます。

3. すきまテープを1cm程度切り、はくり紙をはがして、①接着面にマグネットを置き、
②その上からイラストを貼ります。
※磁石の裏表に注意が必要です。えんぴつ棒を使ってS極とN極を確認してください。



4. 画用紙または厚紙をA4サイズに切り、迷路の下書きを書きます。(添付データを使用されてもかまいません)。
裏表で、2パターン作ります。
※後で貼る、すきまテープの幅を考慮して作成します。
中で動かすイラストが通るように気を付けてください。



5. 下書きに沿って、すきまテープを貼ります。

6. できあがった迷路をケースの中に入れ、中で動かすイラストを表・裏どちらかの面に入れます。完成です!
※両面ともにイラストを入れてしまうと、磁石が上手く動きません。

< 使い方 >

- ・迷路に沿って、えんぴつを握り、イラストを動かします。棒が離れてしまうと中のイラストが動かないので、ゆっくり動かすことがポイントです。
- ・迷路は、児童生徒の実態に応じて難易度を調整して下さい。また、えんぴつ (動かす棒) は、ペンなど、他の物でも代用できます。
- ・磁石を使わず、中にビー玉を入れて、転がして動かすタイプにも活用できます。その際は、誤飲を防ぐため、ケースが開かないようにテープ等で密閉して下さい。

